



談話室



漫画家
安田まさえ さん

profile

鹿児島県出身の4コマ漫画家。
鹿児島大学理学部数理情報科学科を卒業後、竹書房にてY-1グランプリ月間賞を受賞、現在「まんがくらぶ」・「まんがライフMOMO」の2誌にてK大学理学部数学科に通う女子4人の生活を描いた「数学女子」を連載中。

— 数学を学ぶ上では何が大事だと思いますか？

数学は丁寧に学習していけば必ず力になってくるので、一つ一つ理解していくことが身に付けていくうえで重要なことだと思います。そして、ある種のあきらめと、しつこさのバランスとでもいいですか…瞬間に判断するような能力も必要なものだと思います。あとは楽しみながら学ぶことが大切ではないでしょうか。

— 一般的に理系、特に数学科に進学する女子は少数ですが、そのことについてどう思いますか？

数学科に進学する女子が少ないのは、情報が少ないことに原因があると思います。もしも、数学科の情報をもっと手軽に知ることが出来たなら、「面白そうだ」と興味を持ってくれるかもしれないのに、他の学科などと比べるとなかなか知る機会がありません。また、自発的に調べようとしても学生時代は受験勉強などに手いっぱい、なかなか調べる余裕がなかった記憶があります。

どんなことを勉強するのか？また、どのような面白いことがある世界なのか？進路はどういう道があるのか？…など、数学に興味ない人でもどこかで情報を得る機会があれば、興味を持つ人が出てきたり、考え方が変わるかもしれません。私が現在描いている漫画の「数学女子」では、大学の数学科での思い出やエピソードなどを登場させており、登場人物も大学時代同様に学年内に女子が4人だけいる状態です。数学科に行く人＝学校の先生になる、というイメージしか実際入学した当人も持っていなかったのか、漫画家志望の私以外の他の3人は全員教員志望でした。

漫画の中でのお話なので、全てが正しい情報ではないかもしれませんが、できる限り伝えるように努力しています。私の描いた漫画を読むことで数学に興味を持ったり、数学科の情報を得る手段の一つとして役立てていただけるとありがたいと思います(笑)

(次号につづく)

— 高校時代、どんな学生でしたか？

また、数学の先生は印象に残っていますか？

高校1年の時はとても真面目に学校に通っていましたが、高校2年、3年と進路等で悩んで不登校気味になって午後だけ出席することもあったため、友達に「社長」と呼ばれたりもしていました。

高校3年生の時、1年時の担任だった数学の先生が再び担任となりました。後から聞いた話なのですが、私が学校に通いやすいように担任になってくれたとのこと。この先生がいなければ数学科に進学することもなかっただろうし、「数学女子」の漫画を描くこともなかったかもしれません。先生にはとても感謝しています。

— 数学の好きなおとろや嫌いなおとろはどこですか？

昔から暗記が苦手で、高校時代に数学が好きだった理由は「覚える」という作業が極端に少なかったことが挙げられます。数学の公式はその場で考えて導き出すことが可能なので、簡単なものだけ覚えて、あとはその式を流用していました。

反対に嫌いなおとろは、1つでも知らないとすべてにつまずくところ。学生時代、風邪で長い期間休んでしまい、習ってない授業がありました。その後、虚数の「i」がテストに出てきましたが、その意味がわからずに0点を取ってしまい、数学が大嫌いになったことがあります。

通巻第65号
2013年 3月 29日 印刷
2013年 4月 5日 発行

© 編修・発行

日実教出版株式会社

代表者 戸塚雄 式

定 価 210円 (本体200円)

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町 5

TEL. 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>